

平成 25 年度大豆作況試験生育状況

【生育概況】【標播（5/27 播種）60 日後，晩播（7/4 播種）20 日後】

標播栽培は，播種後 40 日までは生育が旺盛で，平年に比べ茎長は長く，主茎節数，分枝数は多くなった。7 月に入り曇りや雨の日が続き，日照時間が少なかったため，播種後 60 日の調査でも茎長は長くなった。主茎節数は平年並であることから，節間長が長く徒長傾向であるといえる。また，7 月中旬から気温が低い状態が続いたため（日平均気温：-2.4℃），あやこがねを除き，分枝数は少ない傾向となった。

晩播栽培では，播種後から曇りや雨の日が続いた。7 月中旬からの低温により出葉が遅れ，茎長は平年並であったものの，主茎節数は少なくなった。

表 1 7 月 25 日現在の生育状況

播種期	品種名		茎長 (cm)	主茎節数 (節/本)	茎長/主茎節数	茎径 (mm)	分枝数 (本/本)	総節数 (節/本)
標播 (5月27日)	タンレイ	本年	72.3	14.2		9.1	2.5	28.5
		平年比(%)	128	104	123	114	91	111
	あやこがね	本年	62.5	13.8		8.4	2.5	28.3
		平年比(%)	124	108	116	104	102	123
	タチナガハ	本年	75.5	14.6		8.7	2.1	28.3
		平年比(%)	139	102	136	101	76	105
ミヤギシロメ	本年	77.5	14.3		9.6	2.1	28.1	
	平年比(%)	135	105	129	109	71	110	
晩播 (7月4日)	タンレイ	本年	16.0	4.3		3.6	0	4.3
		平年比(%)	98	83	118	98	-	83
	あやこがね	本年	13.3	4.1		3.4	0	4.1
		平年比(%)	100	91	108	98	-	93

注1) 平年比は過去5か年の平均値との比

注2) タチナガハは平成24年度より供試のため，前年比で示している。

【今後の管理の留意点】

県内の大豆圃場では，断続的な降雨によって，生育遅延や葉の黄化等の湿害が発生している圃場が見られる。湿害を受けた場合には，排水対策を講じるとともに，窒素追肥が被害軽減に有効である。明渠の手直しや枕地の畦を切って排水溝につなげる等，追肥の前に圃場の停滞水を排出し，速効性肥料を 10a あたり窒素成分で 3kg 程度施用する。